

nicochanism

ニコチャニズム

重い病気や障がいがある人の
こころゆたかな毎日のために

08

2021
08.01

認定NPO法人
ニコちゃんの会



YUMA



JUNKO



MIEKO



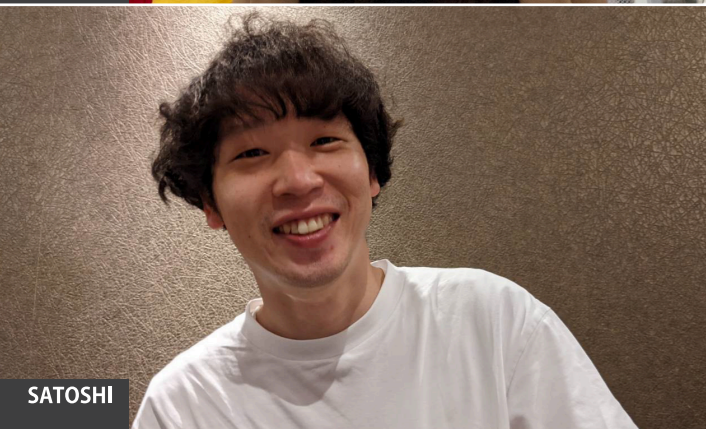
MASAMI



KIRARA



TAKAYUKI



SATOSHI



YORIKO

ニコちゃんにかかわる人たちの近況
この一年どうしてた？

認定NPO法人ニコちゃんの会

address 福岡市城南区樋井川6-37-8

tel 092-863-5903

e-mail info@nicochan.jp

web http://www.nicochan.jp

nicochanism

No.08

2021年8月1日発行

発行・デザイン 認定NPO法人ニコちゃんの会



designed by nicochan

体制を整える1年に

昨年度の話をするにあたっては誰もが新型コロナウイルスのことが始めに出てくるのではないかと思います。私たちニコちゃんの会も同じく、大きな影響を受けました。演劇公演や啓発活動等、企画していた事がそのままでは実施できない状態となりました。もともと私たちはより多くの方に「障がい」を軸に様々な事を肌で感じてもらいながら伝わっていくことを大切に活動してきました。肌で感じる……。これが充分に実施できない状態である今は、私たちにとてもは非常に大きな制限を受けているような状態です。それでもオンラインが普及したこともあり、形を変えてそれらの企画を実施することができました。オンラインでは肌で感じるとまではいかなくとも、伝わることはあると思います。いつか世の中が落ち着いたら直に顔を合わせていろいろやりたいなと強く感じています。

今期は、福祉サービスとケアコミュニティハウスプロジェクト以外の活動をお休みし、団体の活動の意義や目的を整理するための1年とさせていたくださるといたしました。もちろんこれまで目的をもって活動を実施してきましたが、整理することで活動意義をより分かりやすいものにし、より良い活動につなげていきたいと思っています。来年で団体が設立して10年が経過します。もっとみなさんに愛されるニコちゃんの会を目指して、この1年でしっかりと体制を整えたいと思います。



認定NPO法人ニコちゃんの会
代表理事 森山淳子

この一年どうしてた？

ニコちゃんにかかわる人たちの近況

2020年は新型コロナウイルスのため活動が制限されました。ふだんのさまざまな活動の中で支えてくれていた人たちとも会えなかったと感じています。今回は、これまでニコちゃんの会の活動にさまざまな形でかかわってくださった方に、この1年の様子を聞いてみました。

この1年どうしてた？
ニコちゃんにかかわる人たちの近況 … 02

2020年度の活動をピックアップ … 08

昨年度にやったこと -2020年度(第9期)事業一覧- … 13

ご支援のお願い … 17



平畑美恵子さん

福祉サービスかかわっている方の家族

福祉サービスで訪問していた平畑貴志さんのお母さん。2019年には貴志さんの夢であったオーロラをみに、アイスランドへいくというプロジェクトの当事者です。



佐野優馬さん

ニコちゃんの会の演劇の俳優

当団体が企画している演劇作品に出演している障がいがある俳優。ポッチャというスポーツのチームに所属している。



倉品淳子さん ■歳

ニコちゃんの会の演劇の演出

劇団山の手事情事所属、俳優、演出家。綾瀬シニア劇団プロジェクトリーダー。えずこシアターの演出「あべとべ」「どうじょうじ」等。当団体では演劇のワークショップや演出、出演に携わっている。



田中真佐美さん

福祉サービスかかわっている方

生まれつき脳性マヒ。幼い頃より当団体とかかわりがある。「当事者の生の声を伝えます」をうたい文句に、講演を行っている。現在はインスタ等でパステルアート作成・販売もしている。

貴志は亡くなったけど元気にしてます

みなさん会いに来てね

昨年1月に貴志が亡くなりました。これまで張りつめてやってきたことがなくなったような感覚だった。病状は年を重ねるごとに悪くなっていくのは実感していたけどね…。亡くなるまでいろいろな人たちにいろんな事を経験させてもらったと思ったよ。オーロラを観にアイスランドまで行ったりね。私もよくついで行ったよ。それに、葬式には今までかわってくれたいろんな人が会いに来てくれてとっても賑やかな葬式にももらった。あんな賑やか葬式は私も見たことない。本当に嬉しかったよ。やっぱり亡くなってからはぼっかり心に穴が空いたみたい。最初の3か月は四十

気を付けることは多々ありますが

やり方を変えてやっています

以前は毎日のように作業所(通所施設)に通っていましたが、去年から今年にかけて、新型コロナウイルスの感染予防のために2〜3週間作業所へ行けなかったことが何度かありました。普段の生活は暇です。コロナの前は、友だちと美術館や水族館に行ったりしていたけど、今はどこにも行けないですね…。今は、作業所に行くかポッチャ(的)にボールを投げて近さを競うスポーツ)をする以外は他人に会ってないんです。ポッチャをするときも、体育館の中で密にならないようにみんなが離れて練習しています。ポッチャの大会もコロナになってからは中止になってしまいました。練習の後、

コロナ前の演劇活動を100とすると

今はまだ30

ニコちゃん以外の活動を話すと、コロナが騒がれるようになって仕事や全部キャンセルになりました。これでは食べられないと思って、ファーストフード店でバイトをしました。演劇のほうは、いち早くオンライン演劇をやるうって動きがあった、インプロ(即興演劇)のオンライン公演に出演しました。それから映像作品に対する支援事業に作品を撮って応募しました。部屋でひとりカメラを設置して撮影しましたよ。生まれて初めての映像作品だったから宣伝できないようなものではないよ。(笑)。

そのときどきに自分が幸せに感じることを

大切にしています!

この1年は、主にパステルアートで絵を描いたりしてたかな。描いた絵をポストカードにしたり、布バックにプリントしたりとかして、ネットで販売したりしてるよ。始めたのはコロナに入る半年前くらい。パステルアートは、チョークみたいなパステルと専用の型を使って指でとんとんして作って、詰めてやればひとつ時間くらいで完成できるかな。買ってってくれる人がいて、「元気がでました」って言ってくれたら嬉しいんだよ。そんなこと言われたら描かずにはいられなかったね。描いてる時もたのしいし、どんな絵を描こうかなって思ってる時かわくわくしてる。でもコロナじゃな

九日とかいろいろな処理とかで忙しかったから、コロナのことも気にしてなかった。けど、4月ごろ緊急事態宣言で家でじっとするようになって、貴志がいなくなったことを実感した。買い物もマッサージもジムもやめて、家に独りでじっとしていたらずっと貴志のことを考えるのよね。こんな状況の時に貴志が生きてたらどうなっていたかって。ヘルパーさん減らされて、ベッドで寝たきりでオムツに垂れ流しになるのか、とか。入浴介助が週1回になったらどうなるんだろう、とか。貴志はおらんのに貴志が生きてたらって考えてマイナス思考になってた。あと、貴志がいなく

以前はお茶をしてたんですが、今はそのまま帰宅。またみんなとお茶したいって思いますね。今年から、通う作業所が1か所増えて、1週間に2つの作業所合わせて5日通っています。イベントや対外的な活動に制限はありますが、料理や音楽活動、書道など楽しくしています。

なくて。スマホを持ってない人もいるのでオンラインのためにタブレットをレンタルして送るんだけど、操作が分からない人の所には一軒ずつ持って行って説明しました。あと、去年の8月は宮城県のえずこシアターのオンライン配信の演出がありましたね。対面の芝居は中止。PCR検査を受けて、1週間だけ私が宮城に行つて「with」という芝居をつくりました。今は、神奈川も宮城もこちらの劇団も対面で稽古ができてます。もちろんマスクをして。私はフェイスシールドにマスクをしてやっています。マスクしての稽古はこれから夏は大変でしょうね。でも、シニア劇団の俳優さん

かったら、こんなに力を入れてないと思う。時間があつたからできたことかもしれない。私、コロナがわるいと思わないんだよ。私たち障がい者にとって働ける場所が増えてたんじゃないかと思う。働くことがすべてではないけど、やっぱり私たちの状況や気持ちをコロナがみんなに見せてくれた気がする。外に自由に出れない人がいるっていうことを、世の中が知って、同じ状況になって、ある意味平等になつたかなと思う。それから、人と関わらないと生活できないってことが、濃厚接触者になつたから、人と関わらないことでもある。人にお

なってから、毎日入れ替わり立ち代わりしていた訪問看護師さんとかヘルパーさんが全くなかったのも大きかった。きつく言ったりすることもあつたけど、支えられていたんだと思うよ。今は定期的に会いに来てくれる人もいるよ。最近、家を建て直すことになって、一時的に引っ越し中。貴志と暮らした家はもうなくなつてしまつたけど、ジムや日舞のお稽古を再開したりして忙しくしてます。したいことはいっぱいあるんやけど、あんまり体が言うことをきかなくなってきたのがもどかしい。けど、まあ、元気は元気よ。いつでもおいで。

言っているわけじゃないんだけど、ニコちゃんの俳優のみんなと作業所のメンバーとでお芝居してみたいです。僕自身がお芝居するのが楽しいことが分かったので、作業所でもできないかなと思っっています。いろいろな利用者さんがいて、それぞれの個性があつて、自分を見せたい人が多いんです。演技になるか分からないけど、一緒に作っていききたいなあ、と思って。僕の夢の一つです。それからもう一つ、甥っ子ができました。東京にいる僕の弟に子どもが産まれて…。コロナで会えないけど、早く会いたいです。会えるのは秋ごろかな。

※11〜12ページ参照

は、81歳の方もいるけど元気でですよ。この1年半くらいは、ずっと自宅にいましたね…。前はあまり家にいなかったけど、ずっと家にいて掃除したり、朝昼晩と食事作つて…。ZOOMで打ち合わせしたり。コロナ前の演劇活動を100とすると30くらいですかね。自分自身の俳優活動をしてませんか。一番近い予定は宮城のえずこシアターで8月28、29日に「宇宙船艦エズコ」を予定しています。※神奈川県綾瀬市のシニア劇団のオンライン公演「道成寺」サワリタイ サワレナイ、宮城県えずこシアターの「with」どちらも検索すれば視聴可能です。

願うっていうことはね、その覚悟をもって頼んでるの。(陽性者が)出たのが良いか悪いかという観点でみるだけでなく、こうならないと手に入らなかったこと(私だったら)絵を描くとか、外に出ていなくてもオンラインでつながれるとか、いっぱいあると思うのね。私ね、この1年くらいでね、どうしたら自分の心が喜ぶかなっていう選択の仕方に変えていった。前は手が動かないから絵は描けないってずっと思ってたけど、やってみればできるかもに考えが変わっていったから、絵も描くし、やりたいことをやりたいって言えるようになってきたかな。





黒田隆之さん

リハ職 / ボランティア / イベント参加者

作業療法士。訪問看護ステーションで訪問リハの業務についている。ニコゼミ2020参加者。昨年九州大学の大学院に入学し、現在は仕事と学業と3児の父親をなんとかやっています。



宮本聡さん

元介護スタッフ

九州大学人間環境学研究院教育学部門 助教。2015～2019年ニコちゃんの会にて介護士として所属。2019年4月から九州大学にて教育人類学を専門に研究教育活動を行っている。



澤山頼子さん 36歳

特別支援学校講師 / ボランティア

福岡市立屋形原特別支援学校講師。1980年より普通中学校美術教師、特別支援学校教諭として教鞭をとっている。特に訪問学級担当としての3年間で教師としての幅が大きく広がる。



園田キララさん

ボランティア / イベント参加者

看護学生だった当時、第2期のニコゼミ生として出会い、その後の団体の活動にボランティアとして参加。今年4月から大学病院の看護師として働いている。

転職したし、大学院生にもなりました

福岡市内の訪問看護ステーションで作業療法士として働いていたんだけど去年3月に職場が変わって今は福岡市外の通勤1時間ちょっとのところまで訪問リハの仕事をしています。ちょうど福岡でも新型コロナウイルスが出るんじゃないかってとき。コロナ対応中は、事務所にはほとんど行けなくて、訪問の間は、車の中で待機したり。制服に「訪問看護ステーション」って書いてあるのを見た住人から医療職が町中をウロウロすることを不安視するような苦情がきたりもしたね…。うちの子どもたちには迷惑かけたって思うよ。自分も妻も医療職だからね。サッカーにも映画にも行けなくて

大学での研究・教育は いろいろ影響があります

去年の春ごろから大学の授業はリモートに。コロナのはじめのころの4月とかは大学の授業とか職員の会議が完全にオンライン化したので最初は学生さんとか大学の先生たちの環境を整えることに奔走してたよ。オンライン化するとっても大学のセキュリティ面での警戒とかがあつてなかなか導入できなかつたというのもあったり。でもどうにか導入して、整備して、そんな感じ…。授業はもちろんだけど、高校生向けのオープンキャンパスをオンラインでやったリ、入試試験も一部オンラインでやったリ。結局昨年度1年はほとんど授業はオンラインで、今年に入って希望者は登

新しい職場でコロナ禍でも できることに日々挑戦

今は屋形原特別支援学校に勤めていて、福岡病院に入所してる人に訪問授業にいつてるの。重度の心身障がいのある方でなんらかの理由で家では生活できない方が対象です。また生徒さんには過年度生といって、昭和54年から特別支援教育の義務化がはじまって、その前に学校に行けなかった人の救済として、法律で決められた学齢超過制度があるんです。だから70代の人もいれば、ふつうに就学年齢児童の生徒もいます。色んなパターンがある。今年私が受け持つてるのは二人とも超過生。今は屋形原特別支援学校にきて3年目で、はじめの年は私の年齢より一つ

去年は大学卒業の年でした 今年は看護師として修行中です！

新型コロナウイルスが蔓延し始めた去年の春は大学4年生でしたが、外出自粛状態になったので、看護実習は全部中止。家にいるだけの状態になりました。6月頃から少しずつ実習も再開になって、夏休みの頃は看護研究と実習と就職活動と同時進行していました。就職活動は、筆記試験がオンラインと小論文になりましたね。国家試験に向けては、先生たちと話し合っって、週1回だけに限定して学習会をしたりしていました。学校にも少しずつ行けるようになったのでだいぶ普通の生活に戻ったと感ずるようにはなりました。大学病院の看護師としての採用が決ま

申し訳ないなって思った。自分は今年の4月から大学院生になったよ。もちろん転職する時にもその話としてはして、もともと大学院に行きたいって昔から思っていたんだけど、やりたいこととかが明確になってきて、去年申し込んで、12月面接、1月に合格発表という流れで、自分が面接をすることはあつたけど、面接を受けるのにめちゃくちゃ緊張して2分だけしか話せんかった(汗)。けど、なんとか合格できたよ。大学院では、「まちづくり」に関することがやりたくてね。暮らしづらさを感じながらも制度が適用されない人って結構多くて、そういう人を近所の人

校できるようになったよ。僕は大学には出勤してただけど、研究活動は新型コロナウイルスの影響を受けて、あまりしつかりできなくてね。自分の研究はフィールドワークなので、いろんなところに行くことをよくやっていたので、予定していたものが実施できなかつたりもしたかな。あと、民族芸能とかをテーマに研究していたこともあつて、福岡市内から地方に行きにくいというのを感じました。他にも、参加していたプロジェクトの海外視察とかもキャンセルになったり。その代わりに大学の事務仕事が多量にやってきた感じ。今期は今の状況に合わせた研究方法で進められる

上の人だったの。教員になってはじめて自分より年齢が上の人に教えることになるんじゃないですか、これはね、けっこう楽しかったですよ。同級生と話すような感じで授業することができた。とっても面白かった！それから、ここでしかやれないものもあつて、病院の廊下とかホールとかでの授業は、私たちと生徒さんとそして看護師さんとのやりとりがあるんです。どんどん盛り上げてくれる看護師さんもいたり、その兼ね合いとかどう回していくかという面白さ、生徒さんの持つてる力をどれだけ出せるか、おもしろいですね。プライベートではね、今までにないです

り、今年の4月からは腎臓泌尿器科で働いています。試用期間をなんとか乗り切ったところです。やっぱり社会人1年目は覚えることが多く、いろいろな勉強に日々追われています。もともとは小児科を希望していましたが、今はこの科に配属されて本当によかったと思っっています。まずは大人の何とかかわつて、いろいろな基礎を身につけて、私たちの想いをしっかりと伝えられるようになったら、子どもたちにどうしたらわかりやすく伝えてあげられるかが見えてくるんじゃないかなって。働き始めて、そう思うようになりました。また先輩たちがいつも考えたこともないよう

が支えてくれたりすることに着目してる。昔ながらのご近所づきあいの良さかな。近所のおっちゃんを付けて行って来いよって声をかけたり、怒られたりもするけど、近所同士が当たり前にコミュニケーションをとって、自然に支え合っているようなコミュニティー。将来は、自分の会社を作って、介護、障がい、保育、医療が統合されたような場を作つて、いろんな人が集まる場を作りたいと思ってる。

最近よくニコちゃんの会がかかわっている人たちがどうしているか思い出します。自分にとってはけっこう特別で、良い経験でした。久しぶりに会いに行つてみたい。少しづつ良い方向に向かっているんじゃないかな。

よ！土日は基本家の中。月々金は朝から学校行ってすぐ家に帰る。いつもだったら動き回っていて、ニコちゃんの演劇のボランティアは、特に楽しくて楽しくて。今こういう状態だからなかなか関われない。これは寂しいですね。でも良いこともありました。授業に行けない中で教員同士で研修をしましょうという提案をしたの。授業ですぐに使えような手作りのものを教えたり、楽器の演奏を教えてもらったり。それぞれの得意なものをじっくり見て、互いに吸収しあつて、授業に活かせるようにというのを、今回ゆつくりできた。人間関係も深まったかなという気がしました。



2020年度の活動をピックアップ

2020年度は中止になった企画
もありましたが、
大きな方向転換を行い、
実施した企画がありました。
その中でも長期間の企画を
3つご紹介します。

1

自分で伝えよう!2020

2

ニコちゃんの公開稽古
「オンライン演劇って、どうやると?!」

3

ニコゼミ2020
専門職のための“互学”のすすめ



2020年4月～2021年3月

自分で伝えよう！2020

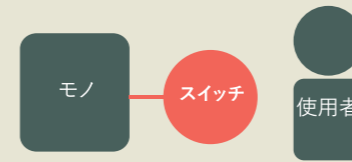
スタッフが学び、通所施設にて実践
“スイッチ”を活用して障がいがある人が自分の動きでモノを操作できるようにカスタマイズ

ニコちゃんの会の通所施設「ニコちゃん家（にこちゃんち）」で、言葉や動きでの発信の難しい子どもたちとのコミュニケーションをさぐるため、さきやかな力で発信することのできるICT（情報通信技術）を活用した「スイッチ」でのあそびに力を入れて取り組んだ企画です。

当所、「スイッチ」に専門性のあるスタッフはおらず、今まであまり積極的に取り組めていませんでしたが、子どもたちの発信について可能性を拡げようと考え、「自分で伝えよう！2020」と題して1年間、団体スタッフが専門の講師に学び、ニコちゃん家に通所する13人の子どものとともに、個別にセッティングしながら実践しました。

新型コロナウイルスの影響で、事業延期も考えましたが、オンラインの活用により、遠方から講師の下川和洋先生に指導していただくことができ、事業を実施することができました。

ここでいう スイッチとは？



今回使用した「スイッチ」とは、モノにつなぐコントローラーの様な役割を果たします。その人の体の特徴や操作したいモノやシチュエーションに合わせてスイッチを選んでその人が一番使い易いところにセッティングすることでいろいろなモノを操作することができると思っています。

1年間の流れ

下川氏を講師に迎え、主に団体内スタッフがスイッチについて学び、通所に通う子どもを対象としてスイッチの検討、作成、調整、実践を行いました。

2020年

5月

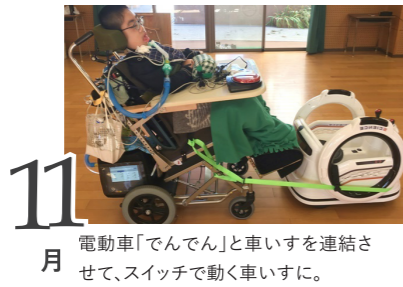
スタッフ、かかわりのあるご本人やご家族を対象として、関東在住の下川先生を講師に迎え、コミュニケーション支援機器について学ぶオンライン勉強会を開催。

6月

下川先生から工作キットを送っていただき、はんだごて等を使って実際にスイッチを作成。

7月

子どもに合わせてスイッチやおもちゃの配線をつなぎ合わせる等の改造を実施して、スイッチと動かす対象のバリエーションを検討。



11月

電動車「でんでん」と車いすを連結させて、スイッチで動く車いすに。



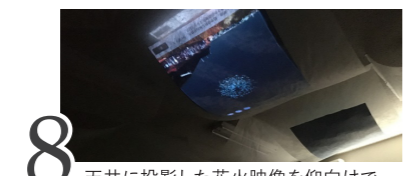
10月

ミキサーを操作できるようにスイッチを作成し、調理実習を実施。



9月

ピアノスイッチや手づくりスイッチを使って、iPadでの写真撮影やおもちゃや扇風機の操作を実験。



8月

天井に投影した花火映像を仰向けで寝たまま操作できるようにスイッチを検討。



11月

電池自体がスイッチの「mabee電池」を活用してプラレールを操作。



12月

クリスマスツリーの電飾にスイッチを接続し、毎日点灯式を開催。



1~2月

節分をテーマにスイッチを入れると送風機が作動し、ビニール袋が膨らむ装置を作成。



3月

スイッチでの遊びを下川先生に見てもらいながら、1年間の振り返り



ピエゾ

身体が動く部位に先端のセンサーを貼り付けて使用。その動きを感じてON/OFF操作ができるスイッチ。筋力が低下した方等に有効でまばたきやミリ単位の小きな動きでも感知する。



空気圧

空気で膨らんでいるバッグに力を加えて、内圧が変化することでON/OFF操作ができるスイッチ。押す以外にもつぶす等、操作が柔軟であらゆる方向から力を加えることに対応している。



棒スイッチ(自作)

赤い棒状の部分がしなる素材でできており、一定以上しならせることでON/OFF操作ができるスイッチ。360度の方向の動きに対応できるスイッチ。もう一端のクリップで固定して使用する。



ビッグマック

1つの音声を録音・再生するシンプルな装置。おもちゃを接続することができ、メッセージを再生している間、おもちゃが動く。軽い力で押せる大きな面積のスイッチなので押しやすい形状。

今回使用したスイッチを
少しだけ紹介します



今回の事業では、子どもたちはスイッチでの遊びを通してモノとモノの関係を学ぶことができたと思います。スイッチを押すタイミングが難しかったのですが子どもたちが自分でスイッチを操作し、モノを動かしたときの今までにない満足感や達成感に満ち溢れた表情は忘れられません。この取り組みが、子どもたちの自分発信の一助となり、これからのコミュニケーションの豊かさにつながっていけばいいと思います。1年間ご指導くださった下川先生をはじめ、協力してくれたスタッフ、そして一緒に楽しんで、喜びあってくれたご家族の皆様、本当にありがとうございました。今後も通所施設での普段の遊びに取り入れていく予定です。

担当者：荒瀬美和

主催：認定NPO法人ニコちゃんの会
助成：2020年度「田辺三菱製薬
手のひらパートナープログラム」助成事業



2021年1月20日

ニコちゃんの公開稽古 「オンライン演劇って、どうやると?!」

オンラインを活用した演劇創作活動

2020年は、夏から秋にかけて、「走れ!メロス。」(2018年福岡公演)の地方公演を企画していましたが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。しかし、毎回アート活動で協力してもらっている福岡市文化芸術振興財団の方からオンラインで演劇をやってみてはどうかと提案があり、その名の通り手探り状態でこの企画が始まりました。

オンラインが得意な障がい者、オフラインでは経験豊富だがオンラインの苦手な高齢者等、今回も舞台を変えて、「バラエティあふれる」俳優たちが全国各地のゲストを巻き込み、公開稽古をオンラインで開催する企画となりました。

オンラインで演劇活動を行うことは、運営する裏方スタッフにとっても初めての試みで、まずはオンライン接続の設定から始めました。稽古風景を動画配信したり、公開稽古の当日はオンラインで開催し、オンラインの機能を活用し、観客とやり取りができるような仕組みを採用する等、オンラインならではの新しいアイデアが盛りだくさんで俳優にとってもスタッフにとっても充実した経験となりました。



活動スケジュール

- 10月2日 ZOOMにてオンライン稽古開始
- 1月20日 公開稽古当日
 - ①ZOOMによる観客参加型配信 と同時に ②YouTubeでも生配信
 - 配信終了後1週間、収録本編を ③YouTubeにて一般配信(アーカイブ配信)
- 2月末 稽古から本番までの総集編をYouTubeにて一般公開
- 3月 本編抜粋動画をアーカイブとしてYouTubeにて一般公開

① ZOOMにて観客参加型の生配信(メイン会場)	参加者数:62名
② YouTubeにて視聴のみの同時配信	視聴者数:最大113名
③ YouTubeでのアーカイブ配信(生配信後7日間)	再生回数:約1,500回

2021年5月時点

公開稽古の概要

- 日程 2021年1月20日(水)19:00開演
同時刻YouTube配信開始
アーカイブの動画配信
- 会場 ZOOM(オンライン)
- 料金 無料
- 構成・演出 倉品 淳子(劇団 山の手事情社)
- 出演 小出直子/小寺美咲/里村歩/佐野優馬
堤泰子/廣田溪/森裕生/山口恭子
- ゲスト出演 片岡祐介/佐藤拓之/早川ひかる/わたなべなおこ



「オンライン演劇って、どうやると?!」
の総集編をご覧ください。

今回は、オンライン公演という初の試みであったため、多くの外部スタッフの力を借りることとなりました。全国のゲストとかかわり、全国のお客様に観ていただくことができ、福岡から飛び出すことができた公演だったと感じています。これは、障がいのある人の演劇の可能性を大きく広げる取り組みとなったのかもしれませんが、YouTube配信等も試みましたが、予想を超える数のお客様に公演を観ていただき、お客様の層も数もかわり方も、今までにない新しいステージに行けたように思います。

担当者: 井上直己

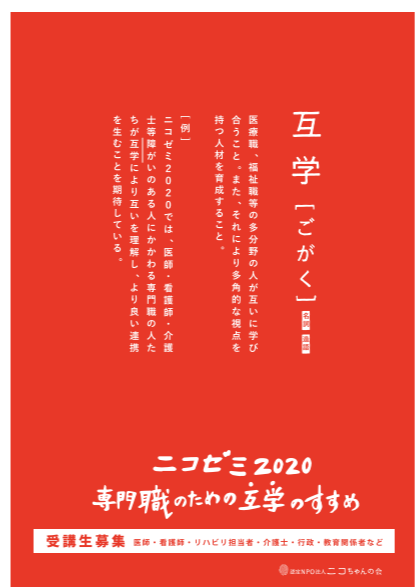
主催:文化庁、(公社)日本芸術家団体協議会、JAPAN LIVE YELL project in ふくおか実行委員会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市、認定NPO法人ニコちゃんの会
共催:西日本新聞社
後援:福岡県、テレビ西日本
協力:劇団山の手事情社、九州大学長津結一郎研究室
助成:(公財)九州文化協会
チランデザイン:館紗也子(株式会社superlap)
動画撮影・編集協力:小西一也
beyond2020認証事業



2020年9月～2021年3月

ニコゼミ2020 専門職のための“互学”のすすめ

障がいのある人にかかわる専門職が学び合うオンラインゼミ



ニコゼミ2020は、「互学」をテーマに、障がいがある人にかかわる医療福祉等の専門職の人が互いに学び合うことで多角的な視点を持つことを目的としたゼミです。ゼミ生(参加者)の中からハナシテさん(話題提供者)を選出し、それぞれの専門職の立場からの話をしてもらい、そのあとディスカッションを行います。対面してじっくりかかわり合うことで感覚や価値観を共有することを目的としていますが、新型コロナウイルスの影響により、開催方法を対面からオンラインに変更し、開催時期も半年延期し、2020年秋に再開することとなりました。

再開のご案内を出し、参加者はやや少なくなりましたが、その人数での深いかわりを目指しました。対面で予定していた企画であったため、オンラインで実施することの互いの関係性の構築の難しさは感じていました。毎回振り返りシートを書いてもらう等で可能な限り言い残しがないようにする等工夫は必須でした。一報で、オンラインのメリットもあり、参加しやすさや遠方からの参加もあり、他県の特性を知る機会にもなりました。

専門職のやりとり

一部だけ要約しています

session1-1 2020/10/6

主な臓器と子どもにかかわる医師の役割について

[ハナシテさん] 落合正行氏(小児科医)

病名が先行してしまい、目の前の相手とかわっていることを忘れてしまうことはありませんか？

そうならないようにその人が何が好きか、何が得意かに意識して注目することがあります。



session1-2 2020/10/6

身体の動きとリハの役割について

[ハナシテさん] 黒田隆之氏(作業療法士)

リハビリの本来の目的は「自分らしい生活する」こと。自分にできるリハビリを考えてみましょう。

病院内でも雰囲気盛り上げて思いっきり遊べる場をつくること！



session2-1 2020/10/27

発達すること・育つことについて

[ハナシテさん] 副島賢和氏(病院内学級の先生) 佐藤貴虎氏(大学教授、発達心理学)

子どもとのかかわりで大切にしていることってなんですか？

一人の人としてかかわるようにしています。



session3-1 2020/11/10

病院から在宅への移行期について

[ハナシテさん] 森山淳子氏(福祉事業所代表、介護士) 村山順子氏(病院地域医療連携室担当看護師)

病院からおうちに帰ることにどんな印象がありますか？

親に医療的なことだけを教えて退院してしまうので、親を医療者にしてしまう。親が親になる準備も必要。



session4-1 2020/11/24

家庭の中のケアとチームワークについて

[ハナシテさん] 梶原厚子氏(医療福祉事業所代表、看護師)

在宅生活におけるサービスについてフリートーク！

サービスの種類と量を具体的に判断する事がありますが、看護師だったらどんな目線で判断するか教えてください。



session4-2 2020/12/8

日々のくらしとその中の楽しみについて

[ハナシテさん] 中西良介氏(福祉事業所代表、介護士)

身近な人で自分たちの組織の活動にどんな形で参加してくれるかをイメージしてみましょう。

身近にいないのですが、保育士さんにかかわってほしいです。自分たちが見落としがちな褒めのプロだと思っています。



session5-1 2021/1/16

緩和ケアの現状について(命について)

[ハナシテさん] 岡崎伸氏(小児科医)、笹月桃子氏(小児科医)

“今まで出会った忘れがたき子ども”を思い出してください。

病院で生まれた赤ちゃん。退院できず病院で育ちました。病院で成長する子に必要な事を考えるようになりました。



ゼミのすすめ方

- 各セッションの主な構成
 - ①ハナシテさんからその専門職の立場での話を聞く
 - ②ハナシテさんからテーマをもらいディスカッション
 - ③ディスカッションの内容を全体で共有
 - ④振り返りシートでより知りたいことや自分の立場に活かせること等を記入
 - ⑤次回のセッション冒頭にて振り返りシート内容を簡単におさらい

※ハナシテさん…各セッションの話し手
それぞれの専門性や立場から話題を作ってもらう役割
- 参加方法(合わせて10~15名程度)
 - ゼミ生 じっくり深く考えたい方向け
 - ※すべてのセッションに参加できる方
 - スポット生 コレには参加したい!という方向け

参加者内訳

職種	ゼミ生	スポット生
医師	2名	
看護師	2名	3名
保健師	1名	
保育士	2名	1名
理学療法士		1名
作業療法士	1名	
特別支援学校教員		1名
介護士		2名
相談支援専門員	1名	

主催: 認定NPO法人ニコちゃんの会
 助成: タケダ・ウェルビーイング・プログラム2018
 協力: 福岡大学病院小児等在宅医療推進事業

受講した感想

- 「型にはまった話し合いでない」
- 「いろんな人の話を聞いて刺激的だった」
- 「いわゆる医療福祉の研修では取り上げられないことを話せる場になりそう」

オンラインゼミになりましたが、それでも毎回参加して、それぞれ何かしらを持ち帰ってもらえたと思います。ただ、ゼミ生同士の「互学」をテーマにしていたのに、オンライン環境でゼミ生同士の交流が生まれにくかったことが準備不足だったと感じています。一方で顔を合わせることの大きさも感じました。いつか世の中の状況が良かった時、直接顔を合わせていろいろと話せたらと思っています。

担当者: 山田賢祐



よかプロジェクト

2021 12/1~24

ニコサンタ

2020年度はコロナ禍で、恒例のサンタがぞろぞろ押し掛けるニコサンタはできませんでしたが、スタッフにプレゼントを託して、子どもたちにお届けしてきました。また、通所施設のニコちゃん家（にこちゃんち）ではクリスマスツリーをみんなで一から作りました。

目的：楽しむ機会づくり
対象：主に福祉サービスで関りがある方

主催：認定NPO法人ニコちゃんの会



2020 4/1~3/31

画面越しであそぼ!

コロナ禍において、楽しい時間や人とのつながりを保ちたいという想いで、「画面越しであそぼ!」という画面上で人と遊ぶ企画を行いました。【参加型】と【配信型】の2本柱で、4月半ばより不定期で実施しました。

目的：オンラインでのつながり
対象：福祉サービスで関りがある方

主催：認定NPO法人ニコちゃんの会



福祉サービス

通年

訪問、通所、相談支援事業

今でもコロナ禍において、支援をどのような形で行うのが良いのかを日々考えながら実施しています。かかわっている皆さんにとってより良い方向性で運営していけたらと思います。

目的：重い病気や障がいがある人の日常生活のかかわり
対象：重い病気や障がいがある方
主催：認定NPO法人ニコちゃんの会



啓発活動

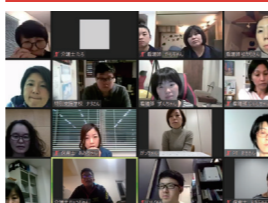
2020 9/1~3/31

ニコゼミ2020 専門職のための“互学”のすすめ

重い病気や障がいがある人と接する医療福祉の専門職を対象に、学び合うことをテーマとしたゼミです。他の専門職の価値観を知り、共有することで多角的な視点で障がいのある人とかかわることができるのではないかと考えて開催。今回は感染予防のためオンラインに変更して実施しました。

目的：医療福祉の専門職どうしの学び合いにより多角的な視点を養うこと
対象：重い病気や障がいがある子どもにかかわる職業についている方25名

主催：認定NPO法人ニコちゃんの会
助成：タケダ・ウェルビーイング・プログラム2018
協力：福岡大学病院小児等在宅医療推進事業



調査研究

2020 4/1~3/31

自分で伝えよう!スイッチあそび

ニコちゃんの会の通所施設のニコちゃん家（にこちゃんち）において、言葉や動きでの発信の難しい子どもたちとのコミュニケーションをさぐるため、ささやかな力で発信することのできるICT（情報通信技術）を活用した「スイッチ」でのあそびに力を入れて取り組みました。

目的：重い病気や障がいがある人がICTを活用し自分で発信できる手段を探る
対象：13名
ニコちゃん家（通所施設）に通所される方

主催：認定NPO法人ニコちゃんの会
助成：2020年度「田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム」助成事業



2020

4/1~3/31 調 自分で伝えよう!スイッチあそび
[keywords] 2020年度「田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム」

4/1~3/31 よ 画面越しであそぼ!
[keywords] オンライン企画

6/13~7/18 す 実践講座「演劇と社会包摂」
[keywords] 共催事業/門限ズ/九州大学ソーシャルアートラボ/(公財)福岡文化芸術振興財団/森裕生氏(舞台パフォーマンス) 里村歩氏(俳優)/廣田溪氏(俳優)/福岡市

9/1~3/31 啓 ニコゼミ2020 専門職のための“互学”のすすめ
[keywords] 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド/タケダ・ウェルビーイング・プログラム2018/オンラインゼミ

12/1~24 よ ニコサンタ
[keywords] クリスマス

2021

1/20 す ニコちゃんの公開稽古「オンライン演劇って、どうやると?!」
[keywords] 文化庁/(公社)日本芸術家演劇家団体協議会/JAPAN LIVE YELL project in ふくおか実行委員会 (公財)福岡市文化芸術振興財団/福岡市/西日本新聞社/福岡県/テレビ西日本/劇団山の手事情社 九州大学長津結一郎研究室/(公財)九州文化協会

通年 調 nicocafe(新型コロナの影響により休止中)
[keywords] 福岡大学病院/ファミリーメンタルサポート

す：すっごい演劇アートプロジェクト 啓：啓発活動 調：調査研究 よ：よかプロジェクト 障：障がい福祉サービス

前年度の活動一覽

2020年度(第9期)事業一覽

すっごい演劇アートプロジェクト

2021 1/20

ニコちゃんの公開稽古「オンライン演劇って、どうやると?!」

劇場での公演が困難であるため、オンラインでの公演を模索するものとして実施しました。障がいがある俳優への身体的なサポート、YouTubeやZOOMを活用した配信等模索しながらも多くの方に観劇いただくことができました。

目的：身体に障がいがある俳優が出演する演劇作品の創作(オンライン演劇)
視聴者：ZOOM生配信(観客参加型)参加数62名
YouTube同時配信 視聴者数113名
YouTube再生回数(配信後7日間)1500回

主催：文化庁、(公社)日本芸術家演劇家団体協議会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、JAPAN LIVE YELL project in ふくおか実行委員会、福岡市、認定NPO法人ニコちゃんの会
共催：西日本新聞社 後援：福岡県、テレビ西日本 助成：(公財)九州文化協会
協力：劇団山の手事情社、九州大学長津結一郎研究室 動画撮影・編集協力：小西一也
チラシデザイン：笠紗也子(株式会社superlap) beyond2020 認証事業



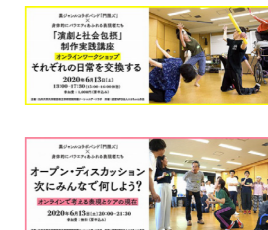
2020 6/13~7/18

実践講座「演劇と社会包摂」 オンラインワークショップ、オープンディスカッション

九州大学ソーシャルアートラボ主催のオンラインイベントを、共催として実施しました。表現やケアについて考え、体感するワークショップとディスカッションです。当団体の演劇俳優と代表の森山も講師のひとりとなっています。

目的：身体に障がいがある俳優の俳優活動のサポート
対象：一般 6/13 13名 7/18 12名

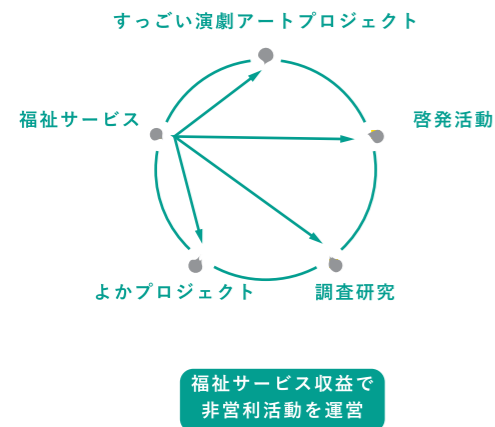
主催：九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ
共催：認定NPO法人ニコちゃんの会、(公財)福岡市文化芸術振興財団
後援：福岡市
助成：令和2年度文化庁大学における文化芸術推進事業



寄付の利用について

①福祉サービス以外の非営利活動の充実

ニコちゃんの会では、福祉サービスの収益でその他の非営利活動を運営しています。啓発のための展示イベントや、演劇等、これからも多くの方にニコちゃんの想いをお伝えしていきたいと思っています。



②多様な人が集える拠点づくり

私たちは、医療的ケアの必要な人たちも対応できる福祉サービスの日常の時間と当団体でこれまで実施してきた様々なワクワクする企画のような非日常の時間の両方を詰め込んだ地域に開かれた拠点となる場を創りたいと考えています。現状を少しでも改善し、さらには社会とのつながりや文化芸術に触れられる環境をつくり、障がいがあってもなくてもいろんなひとが心豊かに暮らしていける社会の拠点となると考えています。ニコちゃんの会では、利益の一部を拠点づくりに充当しており、一日でも早い完成を目指しています。



ご支援のおねがい

ニコちゃんの会は、認定 NPO 法人です。認定 NPO 法人へ寄付をすると、寄付者は税制上の優遇措置を受けられます。わたしたちは、「今の日本に対して“変えたい”と思っている事を、国に税金として使

い道を委ねるのではなく、自分で選んだ身近な団体に直接託することができる制度」だと考えています。一人の力ではなし得ないものも、多くの心のこもったご支援が集まることで、大きなうねりとなって動き始めます。そして、はじめて良いコミュニティ、良いプロジェクトが実現できると考えています。認定 NPO 法人として活動を続けていくためには、今後も毎年 100 名以上の方のご寄付が必要となります。

わたしたちは、皆さまからいただいたご支援を、重い病気や障がいのある人とその家族の心豊かな時間につなげていきます。ひとりでも多くの笑顔のためにご支援いただけますと大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

認定 NPO 法人への寄付者に対する税制上の優遇措置

※NPO 法人数 50,000 法人のうち認定・仮認定 NPO 法人数は約 1,000 法人（2018 年 6 月時点）

個人が認定 NPO 法人に寄付した場合

個人が認定 NPO 法人へ寄付をした場合は、確定申告を行うと、税金の還付を受けることができます。10,000円寄付をしたとすると、半額程度が返ってきます。

例 年間10,000円寄付した場合の控除額
 $(10,000円 - 2,000円) \times 40\%$ (所得税分) = 3,200円
 $(10,000円 - 2,000円) \times 10\%$ (住民税分) = 800円
 計4,000円が返ってくるようになります。

相続人が認定 NPO 法人に寄付をした場合

相続人が認定 NPO 法人に寄付をした場合、寄付をした相続財産が非課税になります。例えば、3億の相続財産があった場合、1億を認定 NPO 法人に寄付を行うと相続税の課税対象額は2億円になります。

法人が認定 NPO 法人に寄付をした場合

法人が寄付をした場合、認定 NPO 法人への寄付は、認定を受けていない NPO 法人への寄付と比較して、経費にできる寄付金の限度額が高くなります。下記の場合は、約4倍も多く損金扱いになります。

例 資本金1,000万円、寄付金を支払った事業年度の課税対象金額は200万円の企業が5万円の寄付をした場合

①認定 NPO 法人への寄付金の損金算入限度額
 $(1,000万円 \times 0.375\% + 200万円 \times 6.25\%) \div 2 = 81,250円$
 損金限度額=81,250円
 50,000円全額損金扱い可能

②一般の NPO 法人への寄付金の損金算入限度額
 $(1,000万円 \times 0.25\% + 200万円 \times 2.5\%) \div 4 = 18,750円$
 損金限度額=18,750円
 $50,000円 - 18,750円 = 31,250円$
 超過分の31,250円は損金になりません。

※上記の例は、あくまでも目安となりますので、詳しくは福岡市・税理士様にご相談ください。

ご支援の方法

✔ クレジットカードでお支払いいただく場合

下の QR コードからクレジットカードでのお支払いの手続きに進むことができます。



※寄付の支払いのシステムが変わりました。



✔ 銀行振り込みでお支払いいただく場合

- 福岡銀行（樋井川支店 普通口座 0259591）
NPO 法人ニコちゃんの会 代表理事 森山淳子
- ゆうちょ銀行（記号 17470 番号 30874861）
NPO 法人ニコちゃんの会 理事 森山淳子

※お振込の際は必ず氏名、住所、連絡先をご連絡ください。

✔ 現金でお支払いいただく場合

スタッフに直接お申し出ください。

団体ホームページからもご寄付いただけます。
ご不明な点は、お問い合わせください。